

「しまだ小学校における学校の統合に関する 説明・意見交換会」の開催結果

令和元年12月13日（金）及び14日（土）にしまだ小学校体育館でしまだ小学校の保護者及び地域の方を対象とした「しまだ小学校における学校の統合に関する説明・意見交換会」を開催しました。

当日、会場で発言していただいたご意見、アンケートに記載していただいたご意見とそれに対する名古屋市教育委員会の考え方をまとめました。

なお、ご意見の内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

◆お問い合わせ先

皆さまからのご意見やご質問については、EメールまたはFAXで受け付けています。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

Eメール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4092

1 統合についての考え方に関すること

（1）統合の必要性

- ・統合は人数も増えて教育上、大賛成。高坂小学校（以下「高坂小」といいます。）の父兄の方で、人数が少なくてさみしいという話も聞いたことがある。小規模学校のよさもあるかもしれないが、厳しい社会で過ごすには、やはり大人数がよい。
- ・経費減少になるので良いと思う。
- ・デメリットよりメリットの方が多くはずだから、統合すれば良い。あれこれ文句を言いすぎている気がする。
- ・子どもの数を考えると統合はやむを得ないと思う。
- ・しまだ小学校（以下「しまだ小」といいます。）はクラス替えができていた学校であるが、メリットは何か。
- ・学級数が増えない学年もあり、工事期間中の子どもたちへの影響もある。しまだ小にとっての統合のメリットを教えてください。
- ・今のところ反対。メリットが見えない。
- ・1クラスの人数が増えれば先生の目は行き届かなくなるし、ぎゅうぎゅう詰めの状態で授業を受けなければいけない。

教育委員会の考え方

- ・小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えており、小学校では12学級以上を望ましい学校規模と考えています。子どもたちのことを第一に考えながら、統合における子どもたちへの心のケアなど十分に配慮し、取り組みを進めたいと考えています。
- ・しまだ小は、現在、各学年クラス替えのできる望ましい学校規模(12~24学級)の小学校ですが、統合すると、望ましい学校規模を確保しつつ、児童数が増え、学年によっては学級数が増え、教職員数も増える見込みです。
- ・より多くの児童がより多くの教職員の中でふれあい、育つことのできる環境を確保するため、統合を契機に、学校施設の老朽化を早期に改善します。
- ・工事期間中の安全確保と子どもたちの学校生活への影響を十分に考慮しながら、安心・安全・快適な施設環境の確保を進めます。

(2) 教員の負担等

- ・先生方への対応はどうなるのか。
- ・統合した結果、児童・教師間の関係は手薄になる気がする。
- ・統合になったら、先生の人数が余ると思うが、部活動の充実など行き届くとうれしい。

教育委員会の考え方

- ・統合においては、学校の移転や新しい学校づくりに伴う事務などが発生し、教職員の負担となることが考えられますので、人的配置を含め学校現場の負担軽減に努めていきます。

2 統合(案)に関すること

(1) 統合相手校

- ・高坂小と相生小学校(以下「相生小」といいます。)の統合の話はどうなったのか。今回、なぜしまだ小になったのか。
- ・10年ぐらい前から相生小・高坂小の統合の話があったが、反対意見が多くダメであったので、しまだ小との統合になったように思う。
- ・なぜ、相生小ではなくしまだ小なのか理由が明確ではないように思われた。しまだ小は今後児童数が増えていくわけでないことは分かるが、相生小の児童数は今後増加した後、減少していく可能性も考えられる。相生小としまだ小の状況は同じではないか。

教育委員会の考え方

- ・高坂小と相生小の統合の計画は、平成 22 年に策定した旧計画に基づいたものです。旧計画では統合場所や統合時期を決めずに、それぞれの学区・学校の代表者で協議して教育委員会に要望するという形をとっていましたが、小学校への思いもあって時間がかかり、旧計画で統合が実現できた事例はなごや小学校（以下「なごや小」といいます。）のみでした。そのため、平成 31 年に新たに計画を策定し、教育委員会が主体となって進めることとしました。
- ・新計画では、統合相手校を含む具体的なプランを学校ごとに作成するとしており、統合の組み合わせについては、「隣接する学校の統合を基本とする」、「原則として、同じ行政区内、同じ中学校ブロック内の組み合わせとする」等としています。
- ・高坂小については、小規模校の状態が解消される見通しが無い中で、しまだ小の場所で、しまだ小との統合案としました。その理由は、①出身の幼稚園・保育園の状況、②学校敷地の広さ、③通学距離が概ね 2 km 以内、です。

(2) 統合場所・施設整備

- ・校舎整備に関して要望がある。次の点を改善してほしい。①校舎が南側にあり、運動場の日当たりが悪い。②段差が多い。③学童保育が敷地内にある。④送電線が走っており、電磁波が出ている。
- ・しまだ小は敷地が 3 段になっている。せめて 2 段にしてほしい。
- ・この際、設備の整備をしっかりといただきたい。
- ・校舎整備の際には、学年で同じフロアになるような配置をお願いしたい。
- ・これを機にユニバーサルデザインにすると良い。
- ・実現するなら校舎の建て替えとともにプールを室内にしてほしい。
- ・校舎建て替えの時、仮校舎はどうするのか。
- ・施設の改築・改修をメリットにあげていたが、それは統合がない場合は全くされないのか。

教育委員会の考え方

- ・統合を契機に必要な施設整備を行うことにより、施設面での充実に取り組むことを考えています。その際には、しまだ小の敷地にある高低差、送電線の状況なども踏まえながら検討したいと考えています。
- ・整備工事については、工事期間中の安全確保を第一に、その間子どもたちの学校生活への負担を考えながら検討していきます。
- ・工事期間中の教室等の確保を含む具体的な整備プランについては、準備ができましたら改めて保護者・地域の皆様に説明したいと考えています。
- ・市では、個々の建物寿命を勘案しつつ、原則として概ね築 80 年程度まで校舎を使用するという考え方ですが、統合を契機に子どもたちにとって安心・安全・快適な施設環境が確保できるよう、

学校施設の改善を図りたいと考えています。

(3) 子どもへのケア

- ・校舎がそのまま高坂小の子が来る場合、高坂小の子が肩身の狭い思いをするのではないかと。
- ・知らない子どもたちが同じ学校に通うことになれば、不安や問題もある。心のケアを手厚くお願いしたい。

教育委員会の考え方

- ・子どもたちが新たな人間関係をスムーズに構築できるよう配慮していくことは、大変重要と考えています。
- ・統合に向けては、学校の中で子どもにとって一番身近である教職員同士で情報交換を進めるとともに、スクールカウンセラーの活用やなごや子ども応援委員会との連携を図るなど、子どもの実情を踏まえながら準備していきたいと考えています。

(4) 通学距離・安全対策

- ・高坂小の低学年の子がしまだ小に通うのは大変だと思う。
- ・久方からだとしまだ小は遠い。
- ・夏は熱中症が心配。
- ・通学の安全はどうか。
- ・しまだ小に通う高島二丁目の児童がしまだ小まで何 km 歩いているのかを周知すれば、高坂小の方も現実が分かるのではないかと。
- ・学区の範囲が変な形で端から端の距離が長く、小学校低学年の子が学区内を歩き回る範囲ではないと思う。

教育委員会の考え方

- ・教育委員会では、小学校の通学距離は概ね2kmを目安としています。なごや小のアンケートでは当初、学校が遠くなることを心配していた子どもも中にはいましたが、統合し、新校舎に変わった後は、多くの子どもは心配がなくなったと回答しています。
- ・熱中症対策については、帽子の着用、こまめな休憩、冷たいタオルやお茶の持参など学校とともに検討していきたいと考えています。
- ・統合による新しい通学路については、警察や土木事務所等の関係行政機関と連携し、保護者や地域の皆様にもご協力をいただきながら、学校とともに安全確保に取り組みます。
- ・なごや小の場合には、①狭い歩道へのガードパイプの設置、②横断歩道の設置、③注意表示の設置、④歩行者先出信号の設置、⑤自転車専用レーンの設置、⑥青信号の時間延長、⑦道路へのカ

3 取り組みの進め方等に関すること

(1) 取り組みの進め方

- ・具体的な生徒数、学級数、面積等が載っていて分かりやすかった。
- ・説明会の開催ありがとうございます。
- ・とても良い会となりました。参加して良かったです。
- ・統合するのであれば早く行ってほしい。
- ・今日の意見交換会で知ったことばかりであった。
- ・統合すると聞きびっくりした。まだまだ不安な所も多いので、色々と検討していただきたい。
- ・今回の説明・意見交換会はステップ1ということだが、統合ありきでなくしっかり協議してほしい。
- ・両学区の地域住民が納得いくまで話し合いをした方がいいと思う。
- ・正直、決定事項だと思って来たので何を質問したらいいのかも分からず、うなずくだけだった。
- ・もう少し意見を聞く時間がほしかった。切り上げが早い。
- ・全体に明確な答えがなかったので、もやもやがあるままである。
- ・説明がすべてあいまい。何のための説明会か分からない。教育委員会の方の対応が悪すぎる。一人ひとりの意見を聞いてくれないなら何の意味もない。これでは誰も納得しない。
- ・最短のスケジュールだといつの統合か。また、説明会は何回あるのか。
- ・統合するなら何年後になるか、具体的な年度を知りたい。
- ・子どもの在学中には統合はされそうでなく、まだまだ分からない。
- ・建て替えか改修かは決まっていないとの説明だが、考えられる工事内容や工事期間、安全対策、プレハブの教育環境などについて知りたい。
- ・しまだ小は現状も見込みも小規模ではない。統合でなく吸収でいいのではないか。
- ・しまだ小 399 人、高坂小 107 人でしまだ小に通うとあったが、規模がしまだ小の方が大きいので、学校名、校歌を変える必要があるのか疑問。
- ・しまだ小の校名、校歌がなくなるのは寂しい。新しい学校をつくるとはどういう考え方か。
- ・PTAはどうなるか。
- ・高坂小での説明会でどんな意見が出たのか知りたい。
- ・反対が多かった場合はどうなるか。

教育委員会の考え方

- ・今回の説明・意見交換会は、統合に向けた取り組みの最初の段階で実施したものです。現時点で、統合に向けた校舎等の整備内容や具体的なスケジュールが決まっているわけではありませんが、保護者・地域の皆様へ統合について教育委員会の考え方を広くお知らせするため、開催しました。

- ・保護者、地域の皆様には、校舎等の整備内容やスケジュール等を含む具体的なプランが示してきけるようになった段階で、改めて説明会を開催したいと考えています。
- ・統合については、一方の学校を残し、他方の学校を廃止するのではなく、新たに学校を開設するという考え方で、両校の特色やよさを継承・発展させるような学校づくりに取り組みたいと考えています。
- ・学校の統合によりPTAも1つになります。両校のPTAそれぞれの活動を継承・発展させていけるよう協議していきたいと考えています。
- ・高坂小で開催した説明・意見交換会では、「きめ細やかな教育をしているので高坂小を残してほしい」、「市営住宅の建て替えがあれば児童数が増えるのではないか」、「通学距離が長くなるので通学安全や熱中症が心配」、「子どもの心のケアをしっかりとしてほしい」、「統合するなら高坂小の場所で考えてほしい」、「全体的なスケジュールを教えてください」といった意見がありました。高坂小で開催した説明・意見交換会の内容についても、市公式ウェブサイトに掲載します。
- ・統合に向けては、小規模校の課題、取り組みの必要性や効果など保護者・地域の皆様に丁寧に説明し、ご心配・ご不安が解消されるよう努めながら取り組んでいきたいと考えています。

(2) 保護者・住民への周知方法

- ・休みの関係上、説明会開催日2ヶ月前くらいには教えてほしい。
- ・事前の案内では、統合案ぐらひの詳細を載せてもらいたかった。
- ・進め方として、今日の会に参加できなかった人など、できるだけ多くの人の意見を聞いてほしい。
- ・今日来ていない人の声もしっかり聞いてほしい。また、学区単位でなくもっと小さい単位での説明会も実施してほしい。
- ・今回の意見交換はどのように反映されるのか。どこかで発表されるのか。

教育委員会の考え方

- ・今回はステップ1ということで説明会を開催しました。おたよりを周知することで、多くの方に知っていただき、さらにご意見をいただきながら進めたいと考えています。
- ・おたよりを始め統合に向けた様々なお知らせは、小学校を通じた保護者への配布、学区での地域回覧とともに、市公式ウェブサイトへの掲載により情報提供していきます。
- ・説明会の開催など、さらに広くお知らせする機会の設定についても検討します。

4 地域に関すること

- ・地域活動はどうなるか。学区も統合されるのか。
- ・学区はどうなるか知りたい。学区も統合するのかしないのか。

- ・行政面で考えた時、2つの校区では面積がかなり広がる。きめ細かい対応が難しいと思うので、どのような考え方をしていくのかも含めて考えてほしい。

教育委員会の考え方

- ・過去の3ケースの統合事例ではいずれも、学区は従前の単位（組織）のまま活動しています。
- ・統合に向けては、区役所等にも随時、情報提供を行い、連携して進めていきます。

5 学童保育

- ・学童保育に関わっている。学童は学校の敷地内にあるが、校舎整備の際にどうなるか知りたい。移転が必要な場合、担当部署と調整して移転先も探してほしい。また、学童の保護者にもきちんと説明してほしい。
- ・学童保育はどうなるのか。
- ・「学童は所管ではない」と回答されていたが、ぜひとも存続の即答がいただきたかった。トワイライトと学童は全く別である。開校以来ある学校内の学童を大事に思うOB父母が現父母、これから続く働く父母の大変さを思うとぜひ残してほしい。

教育委員会の考え方

- ・学童保育については教育委員会の所管ではありませんが、情報交換を含め関係部署と連携し、必要な調整をしていきます。
- ・学童保育については、学校統合後も現在と同じ単位での活動が可能であることを関係部署に確認しています。